

## 富山市総合計画審議会第2回安心部会 概要

場所：富山市役所議会棟7階 第2委員会室

日時：平成23年10月18日（火）

10:00～11:20

### 1 開会

### 2 部会長あいさつ

・本日は、第1回安心部会で作られた各委員からの意見に基づき、事務局で作成した対応（案）について意見を伺い、第1回協働部会での議論を踏まえて、総合計画後期基本計画の策定に向け、議論を尽くしていきたい。

### 3 議事

・富山市総合計画後期基本計画（案）についての意見と対応（案）について

<概要>

（部会長） まず、配付された資料について説明をお願いしたい。

（事務局） 資料について説明

（委員） 中央児童館の位置づけはミニ児童館とは全く別のものか。

（事務局） 中央児童館とミニ児童館とは全く別のものである。

（委員） 子育て支援センターについて、後期基本計画では2箇所の増でよいか。

（事務局） 委員ご指摘のとおり。

（委員） 認定こども園について、教育委員会は認可外保育施設としているが、市民から見れば、それと福祉保健部の保育所とを別には捉えないので、富山市として二重の保育を行うことになると思っている。

（事務局） 今回整備した新保なかよし認定こども園については、富山市立幼稚園適正化計画に基づき、新保地区に保育所がなかったため整備したものである。1～2才時は認可外保育であるが、3才になった時点で全ての子供が幼稚園における教育を受けることになる。市としては、こども園は、この1ヶ所しか考えていない。

（部会長） 認定こども園について、保育料などの制度はどうなっているのか。

(事務局) 条例を制定し、料金体系は、幼稚園を主体としているため、幼稚園保育料による定額の費用を基礎として預かり保育等の費用を加算している。各種サービスをフルに活用した場合は、保育所の保育料とほぼ同額になる。経費については、交付税措置されている。

(部会長) 教育委員会が認可外保育を行うわけであるが、通常の保育と一緒にであると考えている。

(部会長) 中央児童館と併設されている子育て支援センターは、24時間の電話体制が整っているなど機能は高い。今年度、子育て支援センターの全国セミナーが富山市で開催されたが、富山市の評価が高かった。今後はこれを中核に、地域の子育て支援センターや親子サークルなどとの連携を進めていけばよいと思う。

(委員) 87頁の「介護保険の在宅サービスを利用する高齢者の割合」は算定中となっているがいつ数値が出るのか。

(事務局) 現在、富山市高齢者総合福祉プランの策定中のため、算定中としているが、来年1月頃までにははっきりする。製本には間に合う予定である。

(委員) 88頁の障害者グループホーム・ケアホームの整備、特別養護老人ホーム建設助成事業について、より具体的な内容を記載することはできないか。

(事務局) 不確定要素が多いため、具体的な数値を記載することは難しい。

(部会長) 具体的な数値を出せるものは出してほしい。

(委員) 一口に高齢者といっても二極化ないし三極化している。5%の裕福な高齢者を除く、多くの高齢者の声を反映させる必要がある。また、後期高齢者の単身世帯へのきめの細かい配慮が必要ではないか。

(事務局) 最近、現役世代の給料が下がってきていることもあり、高齢者と困窮者はイコールではない。昔よりもよくなってきているという考え方もあるが、高齢になると身体的な不都合が生じるケースもあるので、ご指摘は承る。

(部会長) 住民同士の支え合いが必要である。なかなか実態は見えにくいですが、買い物難民の支援など行政全体としてはがんばっていると思う。

地域包括支援センターなどを使って情報共有ができれば望ましい。

(委員) 町内の回覧板で、敬老会の出席名簿に生年月日、氏名を書かせるものがあった。個人情報保護の観点で気になった。

- (事務局) そうしたやり方で行うことは行政ではありえないことである。町内等での独自のやり方ではないか。
- (部会長) 地域の絆の結びつきが必要とされる一方、プライバシーの保護、個人情報保護の問題があり、大変難しい課題であるが、試行錯誤の繰り返しで、良い方向に行くと思う。
- (委員) 58 頁の保育所数について、施設整備だけでなく、保育士の確保などを充実させていく必要があるのではないか。
- (委員) 待機児童はゼロだが、地域によっては第一希望のところに入所できない場合がある。保育士の確保が難しいため、年度途中の入所も難しくなっており、できるだけ早く改善する必要である。
- (事務局) 保育士の確保については、配置基準に従い人員の確保に努力している。また、私立保育園に対しては人件費補助も行っている。
- (部会長) 県の総合計画では人づくりに重点を置いている。様々な面で絶対数が足りない状況にある。ホームヘルパー2 級講座での就職状況はどうか。
- (事務局) 平成 22 年度は講座修了者 1,430 人、うち市が開催した説明会への参加者 144 人、うち就職者 48 人となっており、資格を取得しても介護関係への就職が少ない状況である。
- (委員) 74 頁の次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定についての数値目標はないのか。
- (事務局) 数値目標はなかなか出せないが、毎年 30 社程度の企業訪問をしており、この中で一般事業主行動計画の策定なども含めてお願いをしている。また、離職者への就職支援も行っている。
- (委員) 市から委嘱されて赤ちゃん教室 (0~1 才対象、月 1 回の 6 回コース) を行っているが、保育所等で行っている親子サークルと取り組みが重複しているという指摘を受けたことがあり、残念である。  
また、訪問票について、電話番号がなくなり、家庭訪問に支障をきたしている。
- (委員) 保育所は「待ち」の姿勢であるが、保健所は訪問される点が非常に大切である。

(部会長) 親から見れば、保育所、保健所など、子育て支援の選択肢が多くあれば望ましい。必要なのは、それらのネットワークであり、交流することが大切である。

今後、第 2 回協働部会が予定されており、本日の意見を報告することとしたい。また、答申案について、安心部会に関して部会長に一任していただきたい。

## 6 閉会

(以上)